



自衛隊職場体験 (青少年広報)



「初めての体験に目を輝かせて…」

発行：沖縄二火会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新栄印刷

第5航空群では、令和5年7月26日(水)から28日(金)の2泊3日で、第5整備補給隊司令(花田博光1等海佐)を主任指導官として、沖縄県内外から集まった中高生18名に対して、自衛隊職場体験が行われました。

自衛隊職場体験は、中高生の夏休み期間に合わせて実施されているものであり、海上自衛隊那覇航空基地内に宿泊して(宿泊を伴う実施は4年振り)、自衛隊の生活を体験するとともに、第5航空群の隊員との交流を通じて、海上自衛隊に対する理解を深めてもらうことを目的に行われています。

初日は、行進や敬礼などの基本的な動作の体験に始まり、AEDを用いた救命措置の実習、ビート板やボールを使った水泳教室で汗をかいた後、給養員が調理した食事を平らげ「おいしい」と笑顔も見せていました。



夕刻には、海上自衛隊の職種についてのDVDを鑑賞後、那覇航空基地のエプロン内において、夜の飛行場を見学しました。

2日目は、今回のメインイベントであるP-3C哨戒機の体験搭乗が行われました。民機では経験することのできない低高度から見る慶良間諸島と綺麗な海に参加者たちは目を輝かせていました。

その後の職場体験においても、救命ボートの展覧や航空機のエンジン整備の一部を体験し、日常生活では味わえない経験に緊張しつつも真剣な表情で取り組んでいました。



終了後のアンケートにおいても「貴重な体験ができなかった」「来年もぜひ参加したい」「海上自衛隊に入隊したい」といった嬉しい意見が多くありました。

この体験を通じて一人でも多くの参加者に海上自衛隊に対する興味を持って貰うとともに、「平和を守る仕事」として考えるきっかけになってくれれば幸いです。

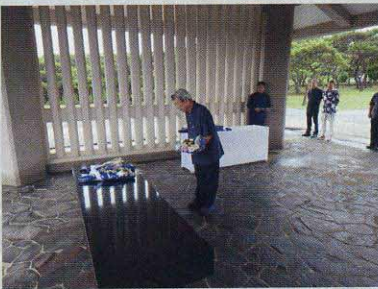
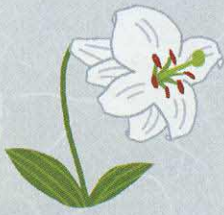
沖縄戦没者墓苑献花式 及び清掃活動



令和5年6月17日(土)「沖縄戦没者慰霊の日」の式典に先立ち、例年は5空群の隊員及び隊員家族等による摩文仁平和祈念公園の清掃ボランティア活動が実施

されていましたが、今年度は、天候不良に鑑み、取りやめとなり、陸・海・空自衛隊の任意団体及び自衛隊協力団体等の代表者による献花(海上自衛隊那覇航空基地上曹会、沖縄二火会が参加)が実施され、戦没者に対し「慰霊と追悼の意」を表しました。

なお、献花の前には、各任意団体有志により公園内の池の清掃活動が実施されました。



沖縄二火会会長 佐久本氏



那覇航空基地上曹会顧問 川畑氏



那覇航空基地上曹会会長 武氏

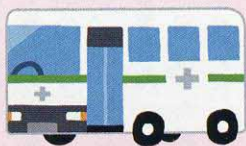
那覇航空基地で 献血協力を実施

第5航空群では、沖縄県赤十字献血センターからの依頼を受け定期的に献血協力が行われています。

令和5年6月6日(火)に行われた献血協力では、76名の隊員が献血に協力しました。

隊員の中には、2か月に1度は献血協力に行かないとソワソワする(献血が趣味になつている)隊員も数名いるそうです。

第5航空群は、これからも身近なボランティア活動の一環として、人命を守り、たくさんの命を繋げる献血への協力を行っていきます。



米海軍との交流について



令和5年6月9日(金)第5航空隊と米海軍との交流が行われました。

本交流は、米海軍との共同連携の強化を目的に行われているものです。

隊員同士のオープンディスカッションでは、任務の特性、航空機の運用方法、人材の活用方法等について意見交換が行われ、相互理解を深め、各部隊が協力して円滑に任務を行うための貴重な機会となりました。

その他にも、沖縄での生活スタイルなどについても話されており、プライベートを含めた関係が築かれていました。また、米海軍の航空機見学で



は、参加した隊員たちが、積極的に質問しており、米海軍哨戒機に関する知識を得ていました。参加した隊員からは「米海軍との交流を深めることにより、それぞれの組織が抱える特性を理解し任務に従事していきたい。」「今回得られた知識を日米同盟及び日本の防衛に最大限活用していきたい。」などのコメントがあり、相互に有意義な時間を過ごしていました。

大型商業施設での 広報活動支援



部隊等の説明が行われました。

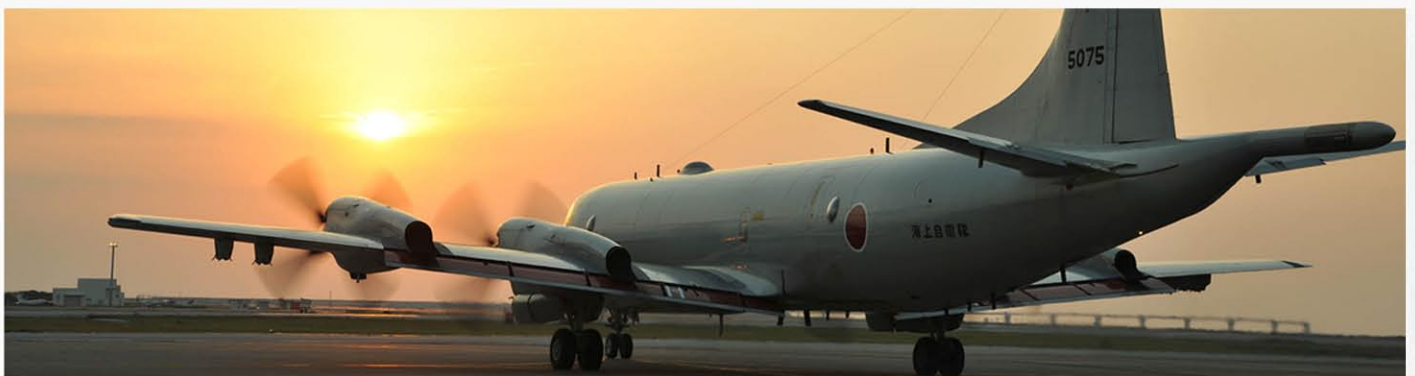
また、南極コーナーでは、砕氷艦「しらせ」の活動の様子が動画で紹介されるとともに、「しらせ」が持ち帰った「南極の氷」の展示が行われ、来場者は興味を持って見ていました。制服試着コーナーでは、陸・海・空自衛隊の制服等を試着しての写真撮影ができるとあって、来場者は「カッコイイ」と喜んでいました。

その他にも、広報グッズの抽選会や、自衛隊内での生活環境等についての質疑応答が行われ、多くの来場者は、楽しみながら自衛隊の活動についての理解を深めていました。



令和5年6月10日(土)「イーアス沖縄豊崎」において、沖縄地本及び第5航空群による広報活動が行われました。

「イーアス沖縄豊崎」2階通路に特設ブースが設けられ、陸・海・空自衛隊の紹介パネル展示や



着任のご挨拶



第5航空群司令部首席幕僚
1等海佐 北原 浩一

令和5年8月21日 第5航空群首席幕僚を拝命しました。海上自衛隊の固定翼機操縦士として約30年、今回初めて、ようやく沖縄に着任することができました。

我が国をとりまく周辺国であるロシア、中国、北朝鮮がその軍事力を増強し、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境で、要衝の那覇で勤務することとなりその重責に身の引き締まる思いです。

海上自衛隊の活動は、我々のみで円滑に実施することはできません。地元、沖縄の皆様は海上自衛隊に対するご理解を得て、国民の命と平和な暮らしを守り抜くため、微力ながら勤務に邁進する所存です。

また、沖縄県民、那覇市民の一人として、生活を満喫していきたいとも思っておりますので、引き続き、前任者同様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

「基地・防衛モニターの部隊見学」

令和5年7月7日(金)「基地・防衛モニターの部隊見学」が実施されました。昨年度までは基地モニターのみでしたが、今年度からは、防衛モニターへの参加が追加され、より多くの基地や部隊を見学し、より良い意見等が聴取できるよう、海上自衛隊の基地だけでなく、陸、空自衛隊の基地や部隊の見学も盛り込まれました。

今回は、令和4年度モニターは、陸上自衛隊第15旅団、令和5年度モニターは海上自衛隊那覇航空基地隊を見学しました。

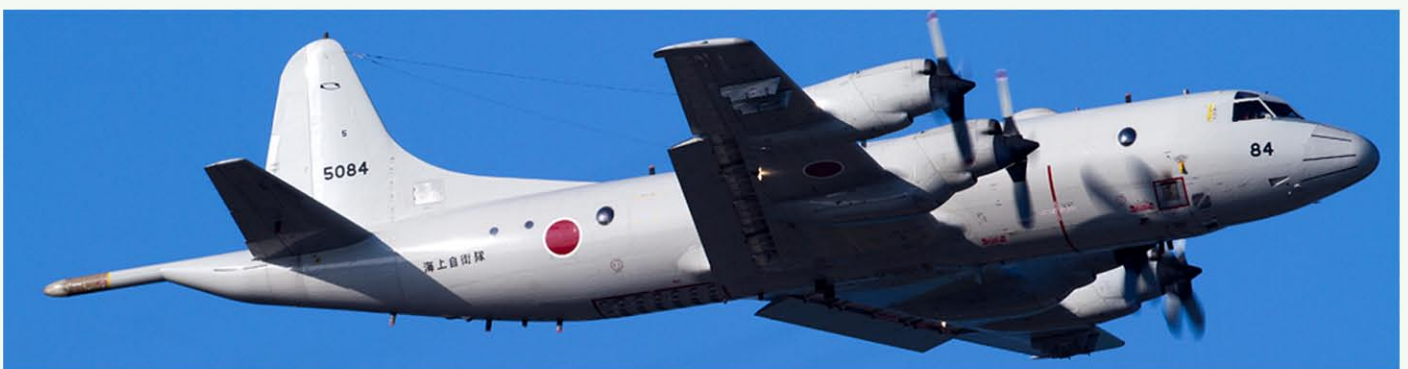
第15旅団の部隊見学では、装備品の見学や任務の



概要説明及び不発弾処理の現状説明により、陸上自衛隊に対する理解が深められました。

那覇航空基地隊見学では、部隊の任務についての概要説明が行われ、隊員の福利厚生や退職後の就職援助なども充実しており、安心して働ける環境であることが理解されました。

参加したモニターからは、自衛隊への理解が深まり、どのようにしたら自衛官の募集に繋がるかを考えて、我々モニターからも発信していきたいとの発言がありました。



海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとつて、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかに、航空管制員や調理員、通信員など、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。その中から今回は、第5航空隊で操縦士として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

- 1 仕事内容
- 2 将来の目標
- 3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

P-3C(固定翼) 操縦士・第5航空隊 飛行隊

町田曹長



① 『第5航空隊で固定翼哨戒機(P-3C)の副操縦士として勤務し、主に沖縄周辺海域の警戒監視の任務を行っています。また、フライト業務以外では、運用班員として隊のスケジュール作成を行っています。』

② 『まずは幹部候補生学校を卒業し一人前の幹部自衛官になることです。そして、技量を磨き、機長をサポートできる副操縦士、最終的には自身が正操縦士(機長)となりクルーに信頼され、どんな任務にも対応できる操縦士になることです。』

③ 『皆さんにはどのような将来の夢があるのでしょうか。まだ若くて何にでもなれる皆さんには無限の可能性があります。自衛隊では入隊してから自分に合った職種を見つけることができます。一度きりの人生、自衛隊に入隊して将来の夢を見つけてみるのもいいのではないのでしょうか。』



「募集対象者に 対する体験搭乗」

令和5年7月27日(木)第5航空群では、募集対象者に対するP-3C哨戒機の体験搭乗が行われました。

当日は、曇り空でしたが視界は良好であり、参加者からは、「海上自衛隊の航空部隊の任務について理解ができ、貴重な体験でした。」「沖縄の海の美しさを再認識し、海を守る海上自衛隊の重要性を認識しました。」等の感想がありました。



那覇航空基地自衛官ファミリー

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。第5回目は、第5整備補給隊で勤務する米倉親子について紹介します。

質問事項

- 1 職種（仕事内容）
- 2 出身地
- 3 海上自衛隊に入隊した動機
- 4 同じ基地内で（夫婦、親子、兄弟）勤務しているの感想
- 5 お互いに一言！（感謝や要望等）



父：電子整備隊 第5整備補給隊 息子：機側整備隊



①【父】航空電子整備員：現在、主にP-3C搭載の電子機器の整備、修理を行っています。その他にも若年隊員の技量向上や資格取得のための訓練に携わるとともに、職務指導等を行い、後輩の育成に日々励んでいます。

【息子】航空電子整備員：現在は、P-3Cに搭載されている音響系統の機器の整備を行っています。上司の指導助言を踏まえ、知識・技量の向上及び体力練成に日々努めています。

②【父・息子】鹿児島県

③【父】鹿屋航空基地で毎日飛んでいるP-2Jやヘリコプターを見て、航空関係の仕事に就きたいと思い入隊しました。

【息子】海上自衛官の父を見て憧れるとともに、鹿屋で育ったことにもあり、幼少期から海上自衛隊が身近な存在だったので入隊を決意しました。

④【父】息子と勤務して嬉しく思う反面、プレッシャーもあります。しかし、今は下積みで頑張る息子を見て、自分も負けてはられないとやりがいを感じ、充実した日々を送れています。

【息子】職種も同じ航空電子整備員で同じ部隊で勤務することはとても不思議な感じがします。家族であり上司、部下の関係でもあるので、とても複雑ですが、与えられた仕事を頑張ろうと思います。

⑤【父から息子へ】まさか自衛官になるとは夢にも思わなかったけど、これからも自衛官として国防のために頑張ってほしい。

【息子から父へ】単身赴任中なのでご飯をちゃんと食べて、健康に気をつけて仕事を頑張ってください。

1万飛行時間達成 フライトを終えて

令和5年6月20日(火) 第5航空隊第52飛行隊所属の3等海佐 安樂良二(戦術航空士)は、1万飛行時間を無事達成しました。

安樂3佐は、昭和62年3月25日、第39期航空学生として入隊、第6航空隊を皮切りに、第3航空隊、第1航空隊、第4航空隊、第51航空隊及び第61航空隊で勤務し、海上自衛隊の任務遂行のため尽力してきました。

当日は、晴天に恵まれ、第5航空隊司令(1等海佐濱野寛美)をはじめ多くの隊員が、フライトを終了した安樂3佐の搭乗するP-3Cをエプロンで迎えました。

安樂3佐は、「1万飛行時間を無事に達成できたことに大きな喜びを感じます。達成できたのは、これまでご指導頂いた諸先輩方や同僚、そして陰ながら支えてくれた家族の支援があったからこそと、心から感謝しております。今後、今後も任務遂行にまい進するとともに、後進の育成に励み、微力ながら航空部隊の更なる発展のために尽力します。」と決意を新たにしました。



募集広報(パワーアドベンチャー)



令和5年8月27日(日) 令和5年度三自衛隊統一募集広報(パワーアドベンチャー2023)が実施されました。

台風6号の影響により、当初予定していた日程から変更されたにも関わらず、多くの方々が参加しました。

本企画は、沖縄県内の高校生及び学校教育に対し、在沖陸・海・空自衛隊の任務等について説明することにより、募集対象者の自衛隊への入隊意欲を醸成することを目的に行われているものです。

第5航空群では、那覇航空基地の概要説明及び装備品展示が実施されました。

概要説明では、P-3Cによる監視任務のほか、航空機整備や基地機能維持に関することなどが説明され、航空機を運用する

ために、多くの業務が必要であることに驚いた参加者が多く、自衛隊の任務や活動について理解を深めていました。また、装備品展示では、P-3Cを間近で見学し、海上自衛隊固定翼哨戒機の魅力が十分に伝わっていたようです。

そのほか、質疑応答の時間も設けられ、仕事に関することから、趣味等のプライベートに関することなど、幅広い質問が挙げられていました。

隊員は、参加者の疑問解消に努め、丁寧に回答しており、自衛官の魅力についてもしっかりと伝わっているようでした。



サマーフェスタ2023

令和5年8月25日(金)航空自衛隊那覇基地主催の「サマーフェスタ2023」が7年ぶりに開催されました。

第5航空群では、同じ基地内に所在する部隊として、来場した地域住民の皆様楽しんでもらおうと、隊員によるバンド演奏、エイサー演舞及び広報ブースでの広報活動が行われました。

当日は、大勢の人が来場し、久しぶりに行われるイベントを楽しんでいました。

バンド演奏等では、開催時間前に集中豪雨に見舞われましたが、練習の成果を発揮し、無事パフォーマンスを終わらせると、観客からは、大きな拍手が送られました。



広報ブースでは、各種パネル広報や広報ラジオ放送のほか、特別展示として、砕氷艦「しらせ」のDVD放映に合わせ「南極の氷」と「南極の石」が展示されていました。

来場された方は、「南極の氷」と「南極の石」に興味津々でした。



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊 第5航空群において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

まず、「初機長フライト」とは、各段階の検定をクリアし、初めて機長として航空機を運航するフライトのこと

とです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、一つの節目とも言えるフライトになります。

当日のフライトは、概ね計画どおりに実施できたものの、一部予期せぬアクシデントが起きました。幸い、各搭乗員と連携し、迅速に対処することができました。これは各搭乗員が、

強く感じました。 本年4月に戦術航空士の資格を取得してから約2か月後に初機長フライトの機会を頂きました。戦術航空士として新たなスタート地点に立つことができました。ことに大きな喜びを感じています。それと同時に、これまでとは違い、不測事態が生じた際には、機長として問題を解決しなければならぬという責任感を強く感じました。

第5航空隊第52飛行隊所属 1等海尉 河村健斗は、令和5年6月29日(木)に初機長フライトを終えました。(初機長フライト時は2等海尉)



使命感をもって不具合に対処してくれたおかげであり、プロフェッショナルリズムを改めて実感しました。

那覇着陸後、司令をはじめ、多くの隊員の出迎えを受け、初機長セレモニーが催されました。無事帰投できたことに安堵する一方、機長としての責任の重大さを改めて一身に感じました。

今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで指導してくださった先輩方、家族、同僚等、たくさんの方々への支援、応援のおかげであると感じています。今後感謝と初心を忘れることなく、幹部搭乗員として技能を磨き、国防の任務に貢献できるよう精進してまいります。

使命感をもって不具合に対処してくれたおかげであり、プロフェッショナルリズムを改めて実感しました。



基地内挨拶運動

那覇航空基地上曹会(那覇航空基地に勤務する海曹長及び1等海曹)で構成する任意団体)により、定期的に基地内で挨拶運動が行われています。

挨拶は、礼儀の基本であり、「挨拶は、目を見て、顔見て、心見て」をスローガンに、挨拶を通じて隊員の心身の健康状態等の把握にも努めていきました。





うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

那覇航空基地隊 2等海曹 與那嶺大史(沖縄県宜野湾市出身)



私が、海上自衛隊に入隊した動機は、大学時代、東日本大震災にて被災地で活躍する自衛隊員に憧れ、自分も人のため、国のために働きたいと考えていたところ、親しい大学の先輩が海上自衛隊に入隊したことに影響を受け、海上自衛隊に入隊することを決意しました。

入隊前は自衛隊の団体生活、特に「しつけ」等に関して不安がありました。が、教育隊に入隊し自衛隊に必要な基礎教育を受ける中で、同期や良き先輩にも恵まれ、楽しく生活することができました。

教育隊修業後は、那覇航空基地での勤務を経て、千葉県の第3術科学校で航空基地における「警備」・「消防」に関する教育を受けました。

術科学校修業後、護衛艦勤務等を経験し、現在は、那覇航空基地隊航空警備隊において基地警備に関する業務に従事しています。

自衛隊入隊前は、沢山の不安がありました。が、数々の経験を積み、不安も解消され、現在は、自分の立場に誇りをもって勤務しています。

また、自衛隊は、福利厚生や家族支援等の施策もしっかりと確立されているので、家庭を持つことに不安はなく、現在、結婚し二人の子供にも恵まれ幸せに生活しています。

今後の目標は、部隊等における戦力の基盤として「知力・体力」を更に向上させ、うちなんちゅの後輩から「かっこいい・いいにいい」(*)と自慢されるよう「ぼんない、ちばって」(*)仕事もプライベートも更に充実できるよう取り組んでいきます。

※沖縄方言

「にいいにいい」⇓「お兄さん」
「ぼんない、ちばって」⇓「どっても頑張ってる」



「術科競技(警備)訓練風景」



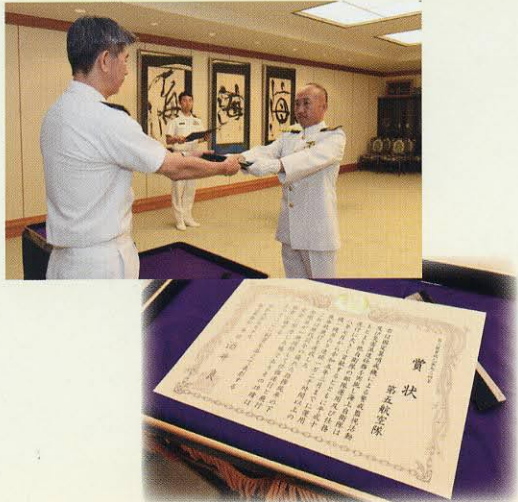
「第5航空隊 部隊表彰」

令和5年7月10日(月)、第5航空隊(司令1等海佐濱野寛美)に対し、海上幕僚長(海将酒井良)から「固定翼哨戒機による部隊運用及び任務遂行への貢献並びに平成18年7月から令和5年3月までに運用機1機当たり連続12,000時間以上無事故飛行を達成した功績」を称え、第二級表彰が授与されました。

【第5航空隊司令からの所感】

今回の無事故飛行に対する表彰については、歴代司令の指導の下、諸先輩方が築き、受け継いできた高い安全意識と航空機の運航及び整備に携わる全ての隊員のたゆまぬ努力が成果として認められたものと考えます。

引き続き、「基本の徹底」を合言葉に、任務遂行にまい進いたします。



海上自衛隊 第5航空群 公式 SNS・広報ラジオ「美ら海の防人」



第5航空群公式
ホームページ

海上自衛隊第5航空群では、SNSを活用した情報発信を行っています。

隊員のオフショットや「海自あるある」など紹介していきます！

X(旧Twitter)やInstagramで「jmsdf_5aw」で検索！たくさんのフォローお待ちしております！

また、沖縄県に在籍する陸・海・空自衛隊及び沖縄地本が週替わりで自衛隊について放送する広報ラジオ「SDF アワー」にて第5航空群では「美ら海の防人」という番組を担当し皆様にお送りしています。

番組に関するお便り、ご質問要項及び年間放送スケジュールは、第5航空群ホームページにて確認できます。

番組で紹介させていただいた方には、もちろん海上自衛隊(第5航空群)オリジナルグッズをプレゼント！

下記のQRコードよりアプリをダウンロードすれば全国どこでもお聴きいただけますので是非お聴きください。

お便りもお待ちしています！

X @jmsdf_5aw



Instagram
jmsdf_5aw



放送局(周波数)

FMレキオ(80.6MHz) / FM21(76.8MHz)

FMもとぶ(78.2MHz)

毎週金曜日 20:00~21:00

※再放送日(FMレキオのみ) 日曜日 21:00~22:00



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、
沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会

事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室

5aw-ckouhou@inet.msdf.mod.jp
那覇市当間 252
☎ 098-857-1191(内 5231)

編集協力委員

首席幕僚	北原 1佐
広報室長	土橋 3佐
群司令部	杉原 1尉
5空	仲宗根 1曹
5整備隊	山川 2尉
那空基	高田 3尉
広報室	今村 曹長

※2023.2.5「沖縄二火会」WEBサイトを公開しました。(https://okinawa-nikakai.com)

※「でいご120号」は令和5年6月から8月までの記事を掲載しています。